

# 2004119

## 絵本学会NEWS No.20

発行：絵本学会

発行日：2004年1月19日

編集：絵本学会事務局・広報委員会

事務局：〒305-8574茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学芸術学系図書研究室内

Fax.029-853-2846

<http://ehongaku.musabi.ac.jp>

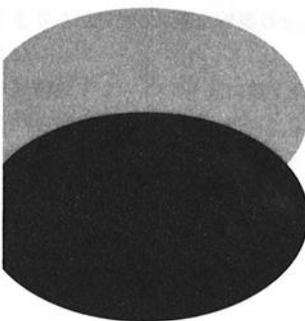
絵本フォーラム'03報告

伝言板

絵本関係展覧会イベント インフォメーション

第7回絵本学会大会のご案内

事務局からのお知らせ



## 絵本学会

### 絵本フォーラム'03

「赤ちゃん絵本と『ブックスタート』運動」報告  
生田美秋

絵本フォーラム'03が8月23日（土）東京の世田谷文学館において開催されました。今回はテーマを『赤ちゃん絵本と「ブックスタート」運動』に設定し、ゲストに前豊川保育園園長の中村恵子さん、藤女子大学の柴村紀代さん、杉並区立下井草図書館の田中共子さん、NPOブックスタート支援センターの佐藤いづみさんをお迎えし、それぞれ報告と問題提起をしていただきました。

第一部はゲストの方々による問題提起、第二部は中村恵子・柴村紀代の分科会と田中共子・佐藤いづみの分科会に分かれての談話サロン、第三部は全体のまとめとして各分科会からの報告、ゲストと参加者との質疑応答、情報交換を行いました。

第一部と第二部の田中・佐藤分科会、第三部の報告は企画委員の生田が、第二部の中村・柴村分科会の報告は企画委員の岩崎が担当します。

今回はテーマの性格上図書館司書、保育士、文庫や地域の絵本ボランティアとして活躍している方の参加が多く、熱気溢れる活発な意見の飛び交うフォーラムになりました。反面、学会会員や研究者の参加が少なかったのは残念でした。

最初に今回のテーマを設定した理由とブックスタートの概要を記しておきます。

ブックスタートは、乳幼児健診に参加した全ての赤ちゃんと保護者に絵本をメッセージを添えて手渡す運動で、全国の自治体に急速に広まり注目を集めています。この運動を理解するには、ブックスタートの内容、背景、意義を正確に把握するとともに、運動の前提となる赤ちゃんの成長と絵本の関係、赤ちゃん絵本の現状などの研究成果を踏まえての自由な意見交換が必要かつ有意義であるとの見地から今回のテーマに設定しました。

ブックスタートは1992年にイギリスのバーミンガム市で始まり、現在イギリスの約9割の自治体で実施されています。実施後の追

跡調査では参加した家庭で本に対する関心が高まった、子どもに集中力がついた、就学後の学力も高くなったなどの成果が報告されています。日本には2000年に「子ども読書年」推進会議によって紹介されました。ブックスタートは赤ちゃんの0歳児健診時に絵本の入ったパックを手渡し、その際絵本の読み聞かせを行い、保護者には絵本や読み聞かせの大切さや楽しさについて伝えられています。パックには絵本のリスト、アドバイス集のほかに地域の図書館案内、子育て支援マップなど各地域で作成した資料が組み合わせて入っています。運動は市区町村単位で行われ、行政の子育て支援関係部署、保健センター、図書館の他に民間のボランティアが関わっています。絵本はブックスタート絵本選考委員会で選ばれた17冊（第2回絵本選考会議が開催され、2004年以降は20冊となります）の中から自治体が選んだ2冊がプレゼントされます。その絵本は、非営利の活動として行われているという運動の主旨に沿って出版社から特別支援価格で提供される仕組みになっています。現在506の市区町村が実施（2003年8月末現在）、運動は民間の非営利組織NPOブックスタート支援センター（理事長松居直）が推進しています。

絵本を介した暖かなぬくもりのある親子のコミュニケーションの促進、立場や専門性をこえ地域全体で子育てをバックアップする環境づくりなどがこの運動の目的とされていますが、子どもの活字離れに歯止めをかけ、本に親しむきっかけづくりの運動としても、若い母親の育児相談の場としても意味のある運動となっています。実施後のアンケートでも9割以上が運動に好意的で、絵本を買うきっかけになった、絵本を読むようになった、家族で絵本について話し合う機会がふえた、今後も続けて欲しいという結果がでているといいます。

ブックスタートを実施する自治体が急速に拡大している背景には、核家族化の進行と子育ての個人化、孤立化、共働き家庭の拡大、育児ストレスの進行、遊び体験の減少と文明依存化など子育てをめぐる社会環境の悪化があります。子育てや赤ちゃんと絵本のよりよい関係を各個人や各家庭の努力にのみ委ねるだけでは解

決困難な状況にあるといえます。子育てを社会全体でサポートしよう、子育てに父親の参加を進め両性化しようといった新たな発想が支配的になっているのです。同時に、赤ちゃんと保護者の豊かなコミュニケーション、ことばと心の発達にとっての絵本の意義があらためて見直されているともいえます。

## 第一部問題提起

第一部は4人による報告と問題提起です。詳細は4人のレジュメに譲るとして、ここでは4人のゲストの紹介と発言の要旨を記しておきます。

中村恆子さんは「保育のなかの赤ちゃんと絵本」と題して、赤ちゃんと絵本を媒介する保育者の役割、赤ちゃんのこころとことばの発達と絵本、赤ちゃん絵本の大切な点は何か、子どもの発達段階に応じた絵本選びの重要性、こもりうた、わらべうたなど「途絶えてしまった育児文化」の有効性を豊富な保育体験をもとに説明、その後具体的に何冊かの絵本を例に、絵本のどの部分が赤ちゃんの発達にそぐわないのかの指摘がなされました。学会員の中村さんには、『子どもの成長と絵本』『絵本はともだち』など保育現場の体験に裏付けられた貴重な研究があります。

柴村紀代さんは「赤ちゃん絵本の現状」と題して、札幌市中央図書館えほん研究会の『アンケートからみえてきた赤ちゃん絵本26冊』刊行の経緯、アンケートを実施した理由、アンケートから明らかになった点を何冊かの絵本を例に説明されました。同じく会員の柴村さんは、童話作家としての活躍のほか、毎回学会の大会で研究発表するなど積極的な発言を続けておられます。

田中共子さんは「『ブックスタート』の実施例から」と題して、平成12年にブックスタートのパイロットスタディーとして日本で最初に紹介された杉並区のケースを、実施の経緯、概要、図書館での取り組みの説明を行い、併せてその後の経過と今後の課題も報告されました。『図書館へ行こう』(岩波ジュニア新書)の著書もある田中さんは、運動の中心となって活躍された司書であり発言には説得力がありました。

佐藤いづみさんは「報告『ブックスタート』ってどんな運動」と題して、運動の推進者の立場から運動の理念、日本における運動の歩みと現状を豊富な実例をもとに報告されました。佐藤さんはイギリスの視察にも参加、最初からこの運動の立ち上げに関わって活躍されています。

## 第二部談話サロン「田中共子、佐藤いづみの部屋」報告

談話サロンは田中さん、佐藤さんを囲んで、ブックスタート運動について参加者の皆さんとの質疑応答、意見交換を行いました。最初に参加者全員に自己紹介を兼ねて二人に聞きたいこと、参加者と議論したい事項について発言していただき、その発言に基づいて議事を進行しました。

杉並区のパイロットスタディーについて、ブックスタートの経費と絵本の選定についての質問が多くの参加者から提出されました。パイロットスタディーについては、図書館員の理解がありスムーズにいったこと、参加する自治体職員やボランティアの教育・研修が大切であること、パイロットスタディー後の図書館の取り組みについても田中さんから説明がありました。ブックスタートの経費は、絵本1冊とアドバイス集の場合330円、2冊に布製のバッグを加えたパック（これが一般的）が約1300円前後で提供されていること（2003年8月現在）、絵本の選考は4人の選考委員

にそれぞれ30冊ずつ推薦いただき、協議を経て17冊に絞っている。質の高い絵本を出版社の支援を受けながら廉価で提供するためにこのような選考を行っており、委員は小児科医、図書館関係者、保育者、児童文学者など多様な専門家が参加していることが佐藤さんから説明されました。

ブックスタートの実施時期については二つの意見が提出されました。佐藤さんから、イギリスでは全国的に7~9ヶ月健診に合わせて行われており、日本の場合は健診参加者の多い3~4ヶ月が一番多く、次いで6~7ヶ月、9~10ヶ月となっていると説明がありました。運動の目的が絵本を介しての親子のコミュニケーションにあり、早いほうがよいという意見と絵本の面白さが少しずつ理解できるようになる9~10ヶ月が望ましいという意見が述べられました。「すべての赤ちゃんと保護者」という点を重視すれば健診参加者の多い3~4ヶ月ということになりますが難しいところです。

フォローアップの大切さについては参加者の共通の意見でした。また、運動は全国一律の画一的なものではなく、理念を共有した上で各地域の実情に応じたさまざまなスタイルを模索していくと佐藤さんから発言があり、参加者の共感を得ました。

運動に参加したいが行政に働きかけても反応がない、どうすればよいのかと言った意見も多くの参加者から提出され、この運動に対する期待の高さをうかがわせました。

参加者に研究者が少なくブックスタートと絵本研究の問題に議論が発展しなかったのは残念でしたが、最後まで活発な質疑が交わされました。

## 第二部談話サロン「中村恆子、柴村紀代の部屋」報告

中村さん、柴村さんを囲んで、赤ちゃん絵本そのものについての、質疑応答、意見交換が行なわれました。保育現場や、文庫、児童館など、さまざまな場で、実際に赤ちゃん絵本を、赤ちゃんたちに読みきかせを行なっているという実践者のかたたちの意見も多く、具体的な質疑応答が活発に行なわれました。

今、赤ちゃん絵本ブームといえるほど、その出版点数が著しく伸びている「赤ちゃん絵本」というジャンルについて、いろいろ話が発展しました。その中で、中村さんが一部で問題提起してくださった、「質が大事とは?」について質問が寄せられました。

乳児期は、発達段階も個人差也非常に大きい時期で、その特別な時期に、ひとりひとりの肉体的に発達段階だけでなく、経験の発達段階にあわせた選書が重要との指摘は、大いにうなづかされました。さらに、ひとりひとりにとって大切な絵本を持つことが重要で、よりよいものを選ぶ目を育てていく必要性を話されました。さらに具体的な選書の秘訣についての質問には、子どもたちと読んでいてびたっとする本があるはず、目で見たときと、声に出して読んだ時は違うはずだから、必ず声にだして読んでみてから選ぶなど、具体的なアドバイスをたくさんいただきました。さらに、経験を生かして40歳以上の人にもっと発言をして欲しい、というエールがおくられました。

柴村さんには、アンケートから明らかになったこととともに、中村さんと同じ質問にいても、同様にお答えいただきました。読み終えた後、ぎゅっとしっかりとしがみついてくるなど、具体的な赤ちゃんの反応を大切にすることが、赤ちゃん絵本の質を考えることにつながる、ひとりひとりその反応は違っているけれど、それが大切なのではないか、との指摘がありました。さらに、赤ちゃんが絵本と出会うための、媒介者としての役割についても触れ

られました。赤ちゃん絵本はコミュニティの手段でもあるけれど、それだけではなく、本を見る読む楽しみを手渡していくことにつながるということも念頭において考える必要性も話されました。

会員から、赤ちゃん絵本の中に潜む人間の本質的なところは、以外と計算して絵本づくりがされているものもあり、赤ちゃんに適していないというジャンルだけで否定してしまっていいのだろうか、という質問がでました。絵本はだれのものか？絵本表現とは？といった、絵本の本質につながる問題提起でもあり、これらの絵本学会そのものの課題でもあると感じました。

### 第三部のまとめ

第三部は分科会の報告とゲストの方々が舞台にあがり、会場の参加者との質疑応答の形で進行しました。活発な質疑が交わされました、ブックスタート運動と絵本研究、ブックスタート運動の課題など今後の重要な検討課題だと思われる点に限って記しておきます。

#### 1 ブックスタート運動と絵本研究

絵本学会は絵本の研究を目的とする学術団体です。絵本に関する活動や運動を支持したり、批判したりする組織ではありません。しかし、絵本研究の目的のひとつに優れた絵本を子どもたちにとの願いがあることはいうまでもありません。

今回のような運動や実践的なテーマに対するわたしたちの立場は、運動に対する正確な理解をもとに学術的な立場から適切な評価や批評を行い、運動から研究上の課題や成果を謙虚に吸収しうるという姿勢にあります。

ブックスタート運動については既に報告してきましたので、ここでは絵本研究から見た運動の意義について整理しておきます。

赤ちゃん絵本（ファーストブック）については、保育現場で「乳児」と呼んでいる3歳未満を対象とする絵本をさす見解と、児童福祉法上の「乳児」すなわち1歳未満を対象とする絵本をさすという見解があります。赤ちゃんが物語絵本に興味を示す2歳までと考えるのが一般的でしょうが、この点の整理がますます必要です。赤ちゃんはどのような絵本を好むのかといった、絵本の題材や絵本表現についての研究、絵本の造本や衛生上からの紙質の研究、赤ちゃんの成長と絵本の役割、赤ちゃんのことばの発達と絵本、赤ちゃんに読み聞かせをする年齢、読み聞かせについての研究、赤ちゃんは絵本との接触によってどう変わらのか、といったテーマの研究が進むことが期待されます。運動の中で絵本研究者ばかりでなく、赤ちゃんの成長に関わる医学、心理学、教育学の専門家が子どもの発達と絵本の意義について学際的な意見交換や研究の取り組みがされ、絵本研究の豊かな広がりを持つことも期待されます。

研究の進展と共に、赤ちゃん絵本の出版が活発になり、すぐれた絵本が刊行され、赤ちゃん絵本が質量ともに豊かになることを願いたいものです。

#### 2 ブックスタート運動の課題

##### 1) フォローアップの重要性

ブックスタートは赤ちゃんと保護者が絵本と出会うきっかけ作りの運動です。一度あるいは二度（3・4ヶ月、1歳6ヶ月、2歳、3歳の4回実施している自治体もあります）絵本を手にしただけで読み聞かせが定着するとは限りません。図書館の赤ちゃん絵本コーナーの設置、読み聞かせやお話し会の開催、おすすめの絵本ガイドの配布、両親を対象とした絵本講座の開催、担当職員やボランティアのフォローアップ研修など行政と地域住民の協働

による運動の計画的、組織的な継続が極めて重要です。

##### 2) 絵本選択の幅の拡大

支援センターによる絵本の選考は適切に行われています。しかし、選考された17冊の中から自治体が2冊を選んで渡しますから、保護者に選択の余地がありません。きっかけの2冊であり、その後は両親が自由に購入又は図書館で借りればよいという意見もあるでしょう。17冊を準備するのは本の手当でや準備の面で大変であるなどの実務面の問題もあるでしょう。しかし、子どもの成長に責任を持つ両親がじっくり検討し責任を持ってわが子にふさわしい絵本を選ぶことはとても大切です。選択に幅ができることで兄弟姉妹や近所の家族間で絵本を交換して楽しむことも可能になります。絵本についての両親の情報も豊富になります。最近は、自治体が5冊前後の絵本を選び健診の会場で保護者が好きな本を選択するという形も広がっています。関係者の努力によって、選択の幅が更に広がることを期待したいものです。

##### 3) ブックスタートの実施時期

0歳児健診は3・4ヶ月、6・7ヶ月、9・10ヶ月などの月齢で設定され、その健診を保健センターで実施するかどうかは自治体によって異なります。ブックスタートをどの時期に行うかも自治体の判断に委ねられています。ブックスタートの実施が多いのは3・4ヶ月健診です。理由は健診参加率が高く3・4ヶ月のみ集団検診を実施している自治体が多いということです。きっかけ作りの運動ですから早い時期にという理由もわかりますが（アンケートでも早い時期を希望する両親が多い）、読み聞かせによって赤ちゃんが絵本に興味をもつ9・10ヶ月が適当ではないでしょうか。重要なのは読み聞かせによって赤ちゃんが夢中になるという事実を両親が実感することです。できれば武蔵野市のように、3歳児を対象にもう一度実施することが理想なのでしょう。

##### 4) ブックスタートの効果測定

イギリスでの効果測定と杉並区での試験的実施の追跡調査が公表されています。杉並区の調査報告は、「第1回ブックスタート全国大会」で秋田喜代美（東京大学大学院助教授）さんが報告しています。調査内容は1、パック配布の受け止め方、各パック配布物への満足度、配布時期について2、配布によって何が変わったと感じているか3、配付群と無配付群で何が違っているのか、家庭で絵本を見る経験、絵本の所有量、絵本を見る行動の開始時期への認識、図書館へいく時期、読み聞かせの意義の認識、育児ストレス低減への影響などです。この他にも、各地で調査の実施が計画されていますので今後の成果が期待されます。医学、心理学、児童文学など幅広い分野の研究者との連携による継続的な効果測定が公表されれば、運動のみならずわが国の赤ちゃんと絵本に関する研究の発展に大きく貢献することとおもわれます。

##### 5) 地域の特性を生かしたブックスタート運動

運動の原則を踏まえながら、各地域の特性に応じたさまざまな内容、スタイルを持つ柔軟な運動としてブックスタートが展開することが期待されています。当初は図書館や書店が比較的少なく、絵本を手に取る環境が十分でない地域での積極的な取り組みが目立ちました。しかし、近年の動向をみると都市部での実施自治体が増え、実施していない自治体でもこの運動への関心が高まっています。都市部では運動の意義を十分に理解しながら厳しい財政事情からすぐに実施できないケースも増えることが予想されます。運動の新たな段階をむかえ、理念を尊重しながらこのようなケースにどう対応するのかといった議論も出てきています。

（世田谷文学館、学会企画委員長・運営委員）

## 絵本フォーラム 問題提起者のレジュメ

### ●保育の中の赤ちゃん絵本

中村恵子（前豊川保育園園長）

いまでは、当たり前？ 保育園での「赤ちゃん絵本」  
「赤ちゃん絵本」とわざわざ言われる前から、ずっと読んできた  
理由  
絵本というものの概念を、崩すのも・崩せるのも保育者？  
普及は良質な絵本の出版とともに  
途絶えてしまった育児文化  
こもりうた  
わらべうた  
あそび（体を揺する・いないないばあ・てあそびなど）  
＊では、これがあれば絵本はいらぬか？  
＊嘆いたり、呆れたりでなく・・・どうすればよいか。  
父母と子ども、保育者をつなぐものとしての「絵本」の位置付け  
育児の方法・文化を信頼感で結ぶ  
言葉を、お話しを待っている赤ちゃん  
コミュニケーションの手段としては、言葉はごくわずかな時期  
表情・しぐさ・語感を読み取る赤ちゃん  
どう、読んでいる？  
ステップを踏んで・・・物語の世界にたどり着くまでに  
<発達の筋を踏まえて>  
あそび・やりとり・期待感・やっぱり！が、もう一度読んでにつ  
ながる。  
<心掛けてること>  
ゆったり・こころよく・繰り返し・個人差・遊び心を大事に  
読み方  
読んでもらうのが、なぜ好きか  
描かれているものを見るのが好きだから  
大人と一緒に、一つのものを共有できる喜び  
語りかけてもらえる嬉しさ  
愛読書を持つ子

### ●赤ちゃん絵本の現状

「赤ちゃん絵本226冊」を発刊して見えてきたこと  
柴村紀代（札幌市・藤女子大学講師）

1 なぜ、「赤ちゃん絵本226冊」という冊子を作ったか  
札幌市中央図書館えほん研究会は今年で18年になる。1994年、  
「読み聞かせ絵本の手引き 332冊の絵本」を作ったとき、赤ちゃん絵本が抜けているのに気がついた。90年代から、赤ちゃん絵本が目につきだして、一度きちんと調査してみたかった。

#### 2 調査方法—なぜ、アンケート調査をしたか？

「332冊の絵本」では、月別におすすめ絵本を自分たちで探し、例会で読み聞かせし、討議して選本をした。赤ちゃん絵本は、大人の感性だけでは選べないことに気づいた。そこで広範なアンケートを実施した。赤ちゃんのいる家庭に、無作為に選んだ10冊を1セットとし、10日から2週間、絵本を貸し出し、絵本1冊毎につけられたアンケートに答えてもらう方式。  
・実施期間 1996年9月1日～1997年3月31日 6カ月

・使用絵本数 702冊　述べ冊数 2460冊

・アンケート回答者数 156人

・アンケート回収総枚数 2460枚

・冊子収録出版社数 59社

・巻末収録冊数 886冊

出版社の年度別発行総数（1996年12月現在）

	90年代	80年代	70年代	60年代	不明	合計
発行冊数	462冊	296冊	90冊	32冊	6冊	886冊
%	52.1	33.4	10.1	3.6	0.6	100%

### 3 アンケートからみえてきたこと

#### a 「認識」絵本（物、色、形、数）の現状と課題

「どうぶつ」「たべもの」「のりもの」など、楽しい絵本が多い分野だが、ここには又「いろ」「かたち・比較」「かず」など、認識を育てる学習要素を含む物も入る。ただ、「かず」や「形」の比較は、まだ3才以下では難しい要素もあり、各社まだ工夫の余地がありそうである。

#### b 「環境」絵本（遊び、生活、家族）の現状と課題

いなないないばあやしかけ絵本も遊びの絵本で、この分野に反応のいい絵本が多かった。赤ちゃん絵本は、赤ちゃんとのコミュニケーションを助ける道具であることを再認識した。静かに読み聞かせるよりも、穴から覗いたり、『おめんのえほん』のように、顔に当たりすることで、予想以上の反応が出ている。

生活絵本は、トイレトレーニングなど、しつけ絵本になりやすいが、これも与え方によると思う。

#### c 「感覚」絵本（音・リズム、イメージ）の現状と課題

『じゃあじゃあびりびり』『もこもこもこ』など、赤ちゃんは感覚的な絵本を喜ぶ。母親が尻込みしないで、読みを工夫したりして、一緒に楽しめるともっとこの分野がひろがると思われる。

#### d 「物語」絵本の現状と課題

幼児絵本でも、筋のはっきりしているものは、赤ちゃんも楽しめることがわかった。実際、2歳後半からは、ほとんど幼児と違ひはなく、その意味では、物語絵本を赤ちゃん絵本からはずして考えることも出来るが、出版社も簡単な物語絵本を赤ちゃん絵本に入れている現状から、やはり項目立ては必要だった。

### 4 まとめ～今後の赤ちゃん絵本の課題

・堅牢性、安全性（角を円くする。抗菌加工）など、配慮されてきたが、赤ちゃんの見やすい大きさや、持ちやすさなどは、まだ研究の余地があると思う。

・赤ちゃん絵本の対象年齢を3歳未満としたが、各社の対象年齢はまちまちで、それぞれが特にその根拠を示していない。もう少し、対象年齢に検討の余地がありそうである。

・幼児の感性や、感覚を育てる絵本がまだ足りない気がする。

### ●杉並区のブックスタート 田中共子（杉並区立下井草図書館）

#### 1. パイロット・スタディから実施へ

2000年（子ども読書年）に、「子ども読書年」推進会議（現在、ブックスタート支援センター）から、パイロット・スタディの要請がありました。杉並区は、それに応えてブックスタートの運動に関わりを持つことになったのです。それは、子育て支援という、行政の課題とも一致するものであり、運動の意義を認め応援することでもありました。

パイロット・スタディの結果が分析され、他のいくつかの自治体とともに、杉並区でも、2002年4月から本格実施を開始しました。検診時の会場づくりと運営、子育てをサポートするさまざまな情報と絵本がつまたパックを手渡すこと。また、日常的にフォロー・アップすることなどは、一つの部や課でできる事業ではありません。杉並区では、児童部・保健衛生部・図書館の連携と協力でおこなっています。

## 2. ブックパックを手渡す

4ヶ月検診を受ける赤ちゃんと保護者が、区内5ヶ所の保健センターを訪れます。検診と栄養指導のあと、図書館員が、一組ずつブックスタートや絵本の話をして、ブックパックを手渡します。

ブックパックに入っている絵本を見て、「えっ、これ、いただけるんですか?」と、びっくりしたり、喜んだりしていただけます。また、赤ちゃんが、絵本に興味を示すとは思ってもいないので、絵本にさわろうとしたり、首をのばして見ようとする様子に、思わず笑みがこぼれました。

実際、4ヶ月検診ではまだ早いけれど、98%という高い受診率をみて、この時が「全ての赤ちゃんに」という理念にかなっていると、私たちも考えていました。ところが、赤ちゃんと保護者に語りかける中で、絵本を介したコミュニケーションを目の当たりにし、早すぎることはないということを実感したのです。

## 3. フォロー・アップとこれからの課題

杉並区のブックスタートは、このように関連する部署の連携によって、杉並区の子育て支援、子どもの読書環境づくりなどさまざまな期待と課題を担ってスタートしました。

ともすれば、ブックパックを手渡す場面だけがブックスタートだととらえられがちですが、それをきっかけに保護者と赤ちゃんのコミュニケーションが豊になることを願って、継続しておこなうものではないでしょうか。

図書館では、赤ちゃんに読んであげたい絵本をそろえたり、リストを作成すること、保護者に読み方や絵本の選び方をアドバイスすること、そしてなによりも、赤ちゃんを連れて気がねなく来館してほしいとアピールすることが望されます。

児童館その他の施設では、赤ちゃんと保護者のための楽しい催しが考えられます。また、保健センターで現在おこなっている乳幼児の子育て相談の充実など、さまざまな部署でのフォロー・アップが必要です。

### ●ブックスタート 大切な5つのポイント

佐藤いづみ (NPOブックスタート支援センター)

◎ブックスタートは 赤ちゃんと保護者が絵本を介して向きあい、暖かくて楽しいことばのひとときを持つことを応援します

・赤ちゃんに負担をかけたり、保護者にプレッシャーを与えたりするような、早期教育の運動ではありません。

◎ブックスタートは 地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者が対象です

・もともと絵本や子育てに関心の高い人や、希望する保護者だけではなく、すべての赤ちゃんと保護者に楽しい絵本のひとときを届けます。すべての赤ちゃんに体の健康チェックをする際に、心のケアもいっしょに行います。

・集団の0歳児健診が実施されていなかったり、健診の回数が多くて実施が困難な場合などは、一度NPOブックスタート支援センターにご相談ください。各地の工夫事例などをご紹介します。

◎ブックスタートは メッセージを直接伝えながら絵本を手渡します

・絵本が入ったブックスタート・パックは、家庭での絵本の時間をつくる「具体的なきっかけ」となります。パックを手渡す時には、赤ちゃんと絵本の楽しさを分かち合う時の喜びや大切さ、そして地域が子育てを応援していることなどを、顔を見合わせて丁寧に伝えることが、とても重要です。

◎ブックスタートは 地域内の連携のもとに市区町村単位で行われます

・実際の活動は1つの機関ではできません。図書館や保健センター、地域の子育て支援センターやボランティア活動をしている方々などとの協働により、運動がより充実した広がりを持ち、継続的な運動として発展します。

◎ブックスタートは 特定の個人や団体の宣伝・営利・政治活動が目的ではありません

・地域の活動への寄付や支援などのあり方については、一度NPOブックスタート支援センターにご相談ください。

この5つのポイントは、ひとつひとつが「ブックスタート」として欠くことのできない大切な理念です。ブックスタートの名称やロゴをご使用いただく時や、NPOブックスタート支援センターからパックを購入される時などには、以上のポイントが生かされる形で実施していただけるようお願いしています。NPOブックスタート支援センターでは、そのための情報提供やご相談、アドバイス、確認などをしています。

## 伝言板

### ●『子どもの本WAVE』のご案内

いまこそWAVE（波）を！

提唱者 太田大八 2003年8月19日

私は子どもと本をむすびつける努力を、40年来続けてきました。しかし、「いま」ほど、その関係が問われる時代はないと感じています。そこで、つぎのようなことを提唱したいと考えました。

ここ数年、読書推進に関わる運動の一助として、私は講演会の依頼を受ける機会が多くなっています。それは、小規模の文庫運動の集まりであったり、大規模な会場での集会であったりします。来聴されるのは、多くのお母さんたち、図書館の方がた、幼稚園・保育園・小学校の先生方などです。みなさん熱心に話を聞いてくださいます。講演する者として、聴講された方がたがどのように感じたのか、その反応はどうだったなどを個人として蓄積してきました。時どき、感想を言ってくださったり、話をまとめてくださったりする方もいます。私個人のこうした体験だけでも、もっと広く共有できないものかと考えてきました。

子どもの本に関わる団体は多くあり、子どもの本に関心のある個人は数えきれないほどおられるでしょう。しかし、一つ一つの団体や一人一人の活動の内容が相互に伝わりにくく、その力を結集できずにいるのではないかでしょうか。

そこで、子どもの本に関する活動の情報を集め、全国的に発信する場所を作り、それぞれの団体や個人の情報を交流するセンターとしての機能を持つ「WAVE」という団体を作る構想を持つにいたりました。

「WAVE」は、孤立した団体を結びつけ、個人個人が集まってパートナーシップを形成し連帯の力で一つの目的-子どもと本を結びつけるための情報を発信するためのニュースを発行するなど、お互いに理解し合える関係を作り、大きなWAVE（波）をおこそうという発想です。

現在、画家、作家、研究者、編集者などに呼びかけ、個人個人の意見を聞きながら、どのようなWAVE（波）をおこすことができるのかを探っているところです。また、各地でより良い子どもの文化の活動をしている団体や、個人の方がたにも加わってもらい、力を結集したいと願っています。

「WAVE」に関わるすべての人の意志のもとに、この「WAVE」を運営していくつもりです。私とともに「WAVE」（波）をおこす仲間になってください。

子どもの本WAVEは、子どもの本が好きな人なら、誰でも入れます。子どもの本や文化活動の情報収集・発信をおこない、子どもと本をつないでいきます。

### ◎活動内容

- ・全国の情報を集めたニュースを発行
- ・機関誌の発行
- ・子どもの本に関する情報交換のイベントを開催
- ・年に1回の大会の主宰

### ◎会員の特典

- ・「ニュースWAVE」に情報を寄せることができます。
- ・「ニュースWAVE」の配付を受けます。
- ・子どもの本WAVEのイベントに優先的に参加できます。

### ◎会費について

- ・入会金1,000円
- ・年会費（4月～翌年3月まで）3,000円
- ・（機関誌は別料金となります）

### ◆問合せ先：

子どもの本WAVE事務局  
〒130-0021 東京都墨田区緑1-21-11  
Tel/Fax 03-3633-8548  
E-mail : home@kodomonohonwave.com

### ●出版のお知らせ

別冊太陽「おとなが子どもに出会う絵本 80人が語る80冊」  
谷川俊太郎、中川素子編 平凡社  
2003年12月21日発行 2000円+税

絵本は子どものものだけではありません。

絵本は、大人が子どもに出会える本であり、子ども時代を共有することができる本です。また、絵本に表現された子どもは大人の子ども観を露にすることもできます。

この別冊太陽では「仲間・家族」「自分のこと」「自然・からだ」「つくる・夢」「世界の子ども」の項目のもとに谷川俊太郎と中川素子が80冊を選びました。

多様な視点から選んだ80冊は、きっと「こんな絵本もあったのだ」と感じてくださるのではないかでしょうか？

またこの別冊太陽には、子どもたちが自分の写真を使って自分を主人公にした絵本作りと、絵本の言葉からイメージし身体表現を試みるという2つのワークショップを取りあげています。

絵本というと読み聞かせだけがよくされていますが、子どもがより主体的にかかわる絵本体験の例を読んでいただくことにより、絵本への新しい関わりが広がってくれればと思います。

（中川素子）

## 絵本関係展覧会イベント Information

### ●軽井沢絵本の森美術館

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1

TEL.0267-48-3340 FAX. 0267-48-2006

<http://www.museen.org/ehon/>

info@museen.org

★春の企画展「魔法えほん展～不思議な力に挑む主人公たち～」  
併設展「新・欧米絵本のあゆみ」展／「動物絵本の100年間」  
(第一展示館にて)

会期：2004年3月1日（月）～2004年5月31日（月）

### ●エルツおもちゃ博物館

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1

電話0267(48)3340 fax.0267(48)2006

info@museen.org

★春の企画展『地球旅行・各国の民俗人形展—「横浜人形の家コレクション」—』

会期：2004年3月1日（月）～6月28日（月）

### ●大島町絵本館

〒939-0283 富山県射水郡大島町鳥取50

TEL : 0766-52-6780 FAX : 0766-52-6777

<http://www.iijnet.or.jp/ehonkan/>

★元永定正絵本原画展

明快な色彩とシンプルでユニークな形が協奏する抽象画の世界  
をお楽しみ下さい。

12月12日（金）～1月28日（水）

大島町絵本館ギャラリー

展示原画

『もこ もこもこ』（文研出版）

『カニツンツン』（福音館書店）

### ●ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

TEL 03-3995-0612 / テレフォンガイド 03-3995-0820

FAX 03-3995-0680

<http://www.chihiro.jp/tokyo/>

★「ちひろ・絵のなかの物語」展（展示室1）

2003年11/19日（水）～2004年1/31（土）

ちひろにとって、アンデルセンをはじめとする童話は、絵のイメージを広げるための大切な素材でした。主人公のお姫様や子どもの愛らしい表現はもちろん、魔女や魔法使いなど個性豊かな脇役の表情や擬人化された様々な登場人物の姿に、画家の創意と工夫が感じられます。本展では『にんぎょひめ』『あおいとり』『にじのみずうみ』など物語絵本の原画や、童話をテーマにした作品を展示します。ちひろの豊かな想像力と自由な感性が描き出した、多彩で魅力的な世界をご覧ください。

★「まど・みちおの絵ー行間の宇宙ー」（企画展 展示室2）

2003年11/19日（水）～2004年1/31（土）

童謡「ぞうさん」などで知られる詩人、まど・みちおが、クレヨンやボールペンといった身近な素材で、詩の平易な言葉と言葉の間を埋め尽くすかのように描いた絵があることはあまり知られていません。

この展覧会では、出身地である山口県徳山（現・周南市）の周南市美術博物館のコレクション約50点により、まど・みちおの知られざる一面を紹介します。これらの作品から、詩の行間に限りなく広がる、詩人の内的宇宙を感じていただければ幸いです。

### ●安曇野ちひろ美術館

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原

TEL. 0261-62-0772 / テレフォンガイド 0261-62-0777

FAX 0261-62-0774

<http://www.chihiro.jp/azumino/top.htm>

冬期休館中（2月末まで）

2004年展示予定

3/1(月)～5/11(火)

＜ちひろの仕事＞ちひろ・子どもは未来

＜ちひろの人生＞初期素描／スケッチ展 I

＜企画展＞まど・みちお展－行間の宇宙－

5/14(金)～7/6(火)

＜ちひろの仕事＞ちひろ・線のリズム

＜ちひろの人生＞初期素描／スケッチ展 II

7/9(金)～9/14(火)

＜ちひろの仕事＞ちひろの花鳥風月

＜ちひろの人生＞初期素描／スケッチ展 III

＜企画展＞～ちひろ美術館コレクション～ 世界の絵本画家展

9/17(金)～11/30(火)

＜ちひろの仕事＞没後30年特別展 わたしが選んだちひろ展

＜ちひろの人生＞初期素描／スケッチ展 IV

＜企画展＞知られざる絵本大国・ロシア

### ●イルフ童画館

〒394-0027 長野県岡谷市中央町2-2-1

TEL 0266-24-3319(ミミズク) FAX 0266-21-1620

<http://www.ilf.jp> (URLが新しくなりました)

★武井武雄愛蔵こけし図譜展

2003年12月5日～2004年2月11日

日本全国の郷土玩具の蒐集家だった武井は、昭和16年から19年にかけて、集めたこけしを愛蔵こけし図譜として木版画作品に残しました。60点にのぼるこれらの作品は伝承木版の技法を用い、作者である武井と彫師摺師とが協力して、一点一点丁寧に仕上げたものです。童画とは異なる武井版画の魅力をお楽しみください。

★降矢なな先生ギャラリートーク＆サイン会

2004年1月23日（金）より、2階第1企画展示室にて「降矢なな展」が開催されます。それに合わせ、降矢なな先生にお越しいただきまして、2004年1月25日（日）午後1時30分より、2階第1企画展示室にてギャラリートーク＆サイン会を開催いたします。

### ●世田谷文学館

〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10

TEL03-5374-9111 FAX03-5374-9120

<http://www.setabun.or.jp/>

★写真展 クマのプーさんと魔法の森へ

平成16年1月10日（土）～4月11日（日）

名作児童文学の魅力を、作品舞台の土地の美しい写真とストーリーでご紹介する写真展の第5回目は、子どもから大人まで世界中で愛されるA・A・ミルン作「クマのプーさん」シリーズです。「クマのプーさん」、「プー横丁にたった家」で、クリストファー・ロビ

ン少年とクマのプー、コブタ、ウサギ、ロバのイーヨーたちは、森の中でさまざまな出来事に会い、冒險に乗り出します。明るい詩がはさまたった軽妙な文章と、失敗してもすぐ立ち直るユーモラスな登場人物、意外な展開が楽しめるストーリーで多くの子どもに親しまれてきた二つの物語は児童文学の不朽の名作です。舞台となったイングランド南東のアッシュダウン・フォレスト周辺の風景はいまなお美しく、おなじみのE. H. シェパードの挿絵そのままの世界がひろがっています。今回は、アウトドア写真で活躍中の写真家・中川祐二氏による60点の写真で、プーとクリストファー・ロビンがいまも遊ぶ「魔法の森」へご案内します。

#### ★講演会「クマのプーさんの魅力」

出演：中川李枝子（児童文学者）

日時：平成16年3月21日（日）午後2時～3時30分

申し込み方法：

平成16年1月25日（日）午前10時より、電話またはFAXで受付。

（送付の際、氏名・住所・電話番号・FAX番号を明記のこと）

定員150名、参加費500円、先着順。ひととき保育有り（5ヶ月～就学前、定員有り、3日前まで別途予約が必要）

申し込み先：「プーさん展イベント」係まで

TEL03-5374-9117（申込専用ダイヤル）

FAX03-5374-9120

#### ●世界のバリアフリー絵本展 国内巡回展 開催情報

国際児童図書評議会（IBBY）の障害児図書資料センターは、長年収集してきた4000冊を超える障害児関係の資料の中からIBBY50周年を記念して、43タイトルの本をセレクトしました。日本国際児童図書評議会（JBBY）と日本ユニセフ協会はこれらの本を借り受け、日本の代表的バリアフリー絵本約20冊を加えて国内巡回展示を行っています。

絵本はその内容により、9つのカテゴリーに分けられています。

- ・身振りで語る（手話つき絵本）
- ・プリスやピクトグラム（絵文字）が付いている本
- ・指で読む（さわる絵本）
- ・市販絵本に点字をつけた本
- ・音の描かれている絵本に音声をつけた本
- ・「やさしく読める本」として特別に作られた本
- ・一般の市販絵本の中で「障害」を超えてみなが楽しめる本
- ・「障害」のある人物が描かれている本
- ・「障害」のある人たちのアートや文学作品

本絵本展を通して、こうした本の存在や必要性を知っていただき、今後研究開発が進み、普及していくことを願っています。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

主催： JBBY 日本国際児童図書評議会・日本ユニセフ協会

後援： 絵本学会

#### ●社会福祉法人 フォーレスト八尾会 おわらの里ふれあいホーム

【日時】 1月19日（月）～1月30日（金）

【場所】 富山県婦負郡八尾町東町2149 八尾ふらっと館（八尾町立図書館内）

（JR高山線越中八尾町より徒歩約15分）

【定員／申込方法／費用等】 なし

【連絡先】 社会福祉法人 フォーレスト八尾会 おわらの里ふれあいホーム・すみれ工房

担当：村上 満 TEL/FAX: 076-454-2117

#### ●NPO法人 高知こどもの図書館

【日時】 2004年2月9日～2月22日 10:00～18:00  
(2月10, 12, 17, 19日は休館)

【場所】 高知市永国寺町6-16

NPO法人 高知こどもの図書館 2階多目的スペース  
(高知県交通バス・土電バス・土佐電気鉄道（電車）の「高知城前」、あるいは「大橋通」より徒歩7分)

【定員/申込方法/費用等】 なし

【連絡先】 NPO法人 高知こどもの図書館

TEL: 088-820-8250 / FAX: 088-820-8251

#### ●三重県立図書館

【日時】 2月27日（金）～3月7日（日）  
平日9:00～19:00 土・日・祝日9:00～17:00  
(2月29日, 3月1日は休館)

【場所】 三重県津市一身田上津部田1234番地  
三重県立図書館 文学コーナー

鉄道：津駅（近鉄名古屋線・JR紀勢本線・伊勢鉄道）西口下車

バス：三重交通バス津駅西口から約5分、総合文化センター下車

徒歩：津駅から約25分

タクシー：津駅から約5分

【定員/申込方法/費用等】 なし

【連絡先】 三重県立図書館 田中みちよ

TEL: 059-233-1180 / FAX: 059-233-1190

なお、この後は

2004年 3月中旬～下旬 鹿児島市

5月2日～9日 岡山市

5月中旬～下旬 沖縄県名護市立図書館

7月6日～11日 水戸市

7月17日～26日 金沢市立泉野図書館

8月8日～22日 静岡県沼津図書館

などで開催予定です。（まだ詳細が決まっておりませんので、来覧ご希望の方は、近づきましたら、下記までお問い合わせください。）

#### ◆絵本展カタログ

世界のバリアフリー絵本展のカタログの翻訳版を1冊700円でおわけしております。IBBY障害児図書資料センターの長年の研究調査収集活動の集大成として文献資料的にも価値の大きなものです。

ご希望の方は下記連絡先までお申し込みください。

連絡先：JBBY 世界のバリアフリー絵本展実行委員会

TEL&FAX 042-566-5403（かくあげ方）



IBBY 50周年記念

オスロ障害児図書資料センター 企画  
「世界のバリアフリー絵本展」

絵本カタログ

iBbY

世界のバリアフリー絵本展のカタログ

## 第7回絵本学会大会のご案内

先にお知らせいたしました様に、第7回絵本学会大会（2004年度）は、2004年6月12・13日の2日間活水女子大学（長崎県長崎市）にて開催されます。プログラム等は、未決定の部分も多いのですが、以下の様に予定していますのでご案内いたします。

★会場：活水女子大学

〒850-8515 長崎市東山手町1-50

電話：095-822-4107（代）FAX：095-828-3702（代）

<http://www.kwassui.ac.jp>

★メインテーマ：「絵本にできること—現在から未来へ」

★プログラム：

6月12日（土）（第1日目）

12:30 受付

13:00 開会式

13:30～14:50 講演

韓国の絵本作家を招聘の予定

15:00～16:50 シンポジウム

内田麟太郎、今井良朗、他

17:00～ 総会

18:30～ 交流会（於：ホテルシップヴィクトリア）

6月13日（日）（第2日目）

9:00～9:30 札拝（列席は任意）

9:40～ 受付

9:50～12:00 研究発表（I・II・III）+作品発表

13:00～14:10 対談

太田大八+川端強

14:20～16:20 ラウンドテーブル（I・II・III）

16:30～ 閉会式

併催展『太田大八の挿絵本（仮）』

観光シーズンであり、他学会開催も予定されているので、長崎市内は混雑が予想されます。宿泊予約等は、各自でお早めにして下さい。以下、主な宿泊先をご紹介します。

●活水女子大周辺 徒歩3分から12～13分程度

◎ホテルニュータンダ（活水すぐ下）

<http://www.newtanda.com/>

お1人様 5,100円（土日）5,500円（平日）（朝食込み）

電話 095-827-6121 FAX 095-826-1704 Free 0120-27-5588

P有30台

◎長崎ビューホテル

<http://hmhotels.com/VIEW/main.html>

洋室シングルユース9,000円 ツイン7,000円（朝食・税込み）

電話095-824-2211 FAX095-827-1891 予約095-823-8761

P有

絵本学会参加者以外は税別

◎ホテルシップヴィクトリア（徒歩20分位、バス利用可）

<http://hmhotels.com/VICTORIA/main.html>

洋室シングルユース 9,000円 ツイン 7,000円

和室シングルユース 8,000円 和室2名 6,000円

和室3～4名 5,000円 （朝食・税込み）

電話095-822-8888 FAX095-820-4399

<p>交流会の会場 元青函連絡船（大雪丸）のホテル P有 絵本学会参加者以外は税別</p> <p>◎JALCITY長崎 <a href="http://nagasaki.jalcity.co.jp/">http://nagasaki.jalcity.co.jp/</a> シングル 9,000～ ツイン 16,000～ 電話 095-825-2580 FAX 095-829-0000 P有43台</p> <p>◎長崎ワシントンホテル <a href="http://www.nagasaki-wh.com/">http://www.nagasaki-wh.com/</a> シングル 8,400～ ツイン 16,800～ 電話 095-828-1211 FAX 095-825-8023 P有</p> <p>◎ホテルモントレ長崎 <a href="http://www.hotelmonterey.co.jp/nagasaki/">http://www.hotelmonterey.co.jp/nagasaki/</a> シングル 8,500～ ツイン 16,000～ 6月20%Off 電話 095-827-7111 P有25台</p> <p>◎Holiday Inn <a href="http://hi-nagasaki.jp/">http://hi-nagasaki.jp/</a> シングル 8,500～ ツイン 18,000～ 電話 095-828-1234 FAX 095-828-0178 P契約駐車場有</p> <p>◎長崎バスターミナルホテル <a href="http://www.nbth.co.jp/">http://www.nbth.co.jp/</a> シングル5,670円（税込）ツイン9,870円（税込）朝食870円 電話 095-821-4111 FAX 095-821-5010 P有</p> <p>◎長崎東映ホテル <a href="http://www.toei.co.jp/hotel/nagasaki/">http://www.toei.co.jp/hotel/nagasaki/</a> シングル 6,800～ ツイン 14,000～ 電話 095-822-2121 FAX 095-826-3105 P有</p> <p>●活水女子大～長崎駅 徒歩15分から20分程度</p> <p>◎トレディアホテル出島 <a href="http://www.tredia-h.com/t-dejima/index-d.htm/">http://www.tredia-h.com/t-dejima/index-d.htm/</a> シングル 5,800～ ツイン 10,000～ 朝食900円 電話 095-826-4176 FAX 095-825-0081 Free 0120-177780 P有</p> <p>◎ベルビュー長崎 <a href="http://www.hotel-belleview.com/">http://www.hotel-belleview.com/</a> シングル 5,800～ ツイン 10,000～ 電話 095-826-5030 Free 0120-503026 P有</p> <p>◎東横イン長崎駅前（H16.1.26オープン予定） <a href="http://www.toyoko-inn.com/">http://www.toyoko-inn.com/</a> シングル 5,800～ ダブル 7,800～ 電話 095-825-1045 FAX 095-825-1046 P有</p> <p>●長崎駅周辺 バス10分から15分、路面電車10分＋徒歩10分程度</p> <p>◎J R九州ホテル長崎（駅隣接） <a href="http://www.jrk-hotels.com/nagasaki/">http://www.jrk-hotels.com/nagasaki/</a> シングル 6,900円（税込） ツイン 12,600円（税込）</p>	<p>電話 095-832-8000 FAX 095-832-8001 P有</p> <p>◎ホテルウイングポート長崎 <a href="http://www.wingport.com/">http://www.wingport.com/</a> シングル 5,800～ ツイン 7,000～ 朝食800円 電話 095-833-2800 Free 0120-833280 P有</p> <p>◎長崎シティーホテル <a href="http://hmchotels.com/CITY/main.html">http://hmchotels.com/CITY/main.html</a> 洋室シングルユース7,000円 ツイン6,000円（朝食・税込み） 電話095-820-0011 FAX095-820-0019 予約095-820-5544 P有30台 絵本学会参加者以外は税別</p> <p>●第6回絵本学会大会研究発表者募集</p> <p>◎研究発表募集要項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発表者の資格 絵本学会の会員であること</li> <li>2. 発表テーマ 絵本および絵本の関連のある研究テーマで未発表のもの</li> <li>3. 発表時間 発表15分 質疑応答5分（変更の場合あり）</li> <li>4. 申し込み要領             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発表テーマ、2) 発表者の氏名・年齢・住所・電話FAX番号・メールアドレス、3) 所属機関名・職業など、4) 発表要旨（800字程度）、5) 発表時に使用する機材（スライドプロジェクター・OHP・ODP等） 以上1)～5)についてA4の用紙に、原則としてワープロで横書きで記入の上、絵本学会事務局宛郵送して下さい。</li> </ol> </li> <li>5. 申込締切 2004年3月31日（水）（事務局必着）</li> <li>6. 発表者の決定 研究発表は原則として無鑑査とします。発表順・時間等は5月中にお知らせします。 *受理した原稿等は返却しませんので必ず控えを取って下さい。</li> </ol> <p>●第6回絵本学会大会作品発表者募集</p> <p>◎大会会場の展示コーナーに会員の作品を展示し、所定の時間に出品者自らが制作趣旨を口頭で発表します。</p> <p>◎以下の要領で作品発表者を募集します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発表者資格 絵本学会の会員であること</li> <li>2. 発表作品 未発表の絵本。個人制作でも共同制作でも可。</li> <li>3. 発表形態 判型・サイズ・頁数などは限定しない。 原画を原寸でカラーコピーしたシート（原則として全画面）、およびカラーコピーなどで製本したもの1冊を出品する。</li> <li>4. 発表時間 口頭発表10分 質疑応答5分（変更の場合あり）</li> <li>5. 申し込み要領             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 作品タイトル、2) 発表者の氏名・年齢・住所・電話FAX番号・メールアドレス、3) 所属機関名・職業など、4) 原画サイズ、枚数 以上1)～4)についてA4の用紙に記入の上、絵本学会事務局宛郵送で申し込んで下さい。作品は、発表者が後日会場に搬入します。</li> </ol> </li> <li>6. 申込締切 2004年3月31日（水）（事務局必着）</li> <li>7. 発表者の決定 作品発表は原則として無審査とします。作品搬入方法、発表の時間等は5月中にお知らせします。</li> </ol>
---	---

## 事務局からのお知らせ

### ●研究助成について

先に研究会などの活動を助成する研究助成について募集しましたが、下記の3件の応募がありました。運営委員会・理事会で審査の結果、この3件について各3万円ずつの助成をすることが決定しました。

- ・戦後60周年子どもの本・文化プロジェクト（代表 正置友子）
- ・日本絵本史研究会（代表 石川晴子）
- ・絵本表現研究会（代表 笹本純）

### ●運営委員会

2003年9月27日 運営委員会 於：日本女子大学6号館3階会議室  
議題

#### 1. 会長推薦枠の運営委員3氏の紹介

理事会で承認を得て、運営委員として運営委員会に参加する加持ゆか、広松由希子、中川素子の3氏の紹介。

#### 2. 前回記録確認

前回7月5日（土）の記録の確認、了承。

#### 3. 理事会報告

7月19日（土）に開催された理事会について、今井会長から報告がなされた。

#### 4. 第7回絵本学会大会について

第7回絵本学会大会開催校の活水女子大学（長崎）の上出恵子氏を交え、第7回絵本学会大会について話し合われ、下記のことが決定した。

##### 1) 第7回絵本学会大会日程

2004年6月12日（土）、13日（日）

##### 2) 大会開催校よりの3条件について

絵本学会大会の開催にあたり、開催校の活水女子大学より下記の3点の条件が示され、運営委員会として了承した。

- 1 活水女子大学はキリスト教主義による大学であるため、13日（日）は大学が会場として使用できないことがある
- 2 長崎県出身の太田大八氏についての内容をいれる。
- 3 たくさん的人が来会する開かれた大会を望む。

##### 3) 国際交流基金への申請について

第7回大会で、国外から講師やシンポジストを招聘するようであれば、国際交流基金へ申請することも検討していく。

##### 4) 第7回大会のメインテーマと内容について

大会のメインテーマと内容は、運営委員会で確定することになるが、運営委員会開催の以前にメールでのやり取りなどを通して、積極的に提案、議論していく必要のあることが話し合われた。

内容については、下記のような案が出された。

##### 1 子どもを中心とした絵本

##### 2 アジアの絵本

##### 3 子どもと平和

##### 4 太田大八氏の挿絵の展示会

##### 5 企画の一つとして、長谷川集平氏と関わったものを

##### 5) 作品発表の運営について

作品発表の展示の仕方、スペース等のことについて検討していく必要のあることが話し合われた。教育機関で作成した絵本の展示等についても、今後検討していくことになった。

### 5. 機関誌『BOOK END』について

機関誌編集委員会の香曾我部委員（委員長）が欠席のため、香曾我部委員より提出された別紙「BOOK END 第2号 企画書」をもとに意見交換がなされ、下記のような意見が出た。

1) 1. 第6回大会での採録を柱とした、シンポジウム「絵本と絵本美術館」と全国絵本美術館リストの掲載については、全員が賛成。

2) 「美術館と絵本原画展」、「美術館の絵本原画コレクション」、「美術館が絵本を扱う意味」の3案については、要検討。

3) 「絵本は美術か？」は不要。

4) 招待エッセイ → 招待でなくとも？

a 幅の広い、開かれたエッセイを望む

海外の絵本研究事情を紹介

論文、講演録等も載せる？

b 作家アトリエ訪問は、作家を取り扱う（作家にかかること）ページという考え方でよいのでは？

c 新刊紹介

絵本そのものについて、何らかの形で取り上げる。絵本の解題はどうであろうか？

今回は、美術館を扱った絵本を集めては？

新刊にこだわらなくてもよい

絵本学会らしい香りのするものに

署名入りで述べた方がよいと思う。

#### 5) その他

a 学会の案内・学会の紹介などを入れる

b 絵本研究の現状（海外も含めて）に言及する

c 絵本作家になりたい人へのアドバイス

d データのコーナーを作る

これらの意見を参考にして、機関誌編集委員会で再検討してもらうことになった。

### 6. 専門委員会の活動

#### ・企画委員会

委員長 生田美秋 委員 岩崎真理子、川西美沙、他2名の計4名で編成

年2回のフォーラムと連続講座の実施

#### ・紀要編集委員会

委員長および委員2名を選出。

査読についての規約の作成

寄稿についても検討の必要がある

#### ・機関誌編集委員会

委員長 香曾我部秀幸 委員 加持ゆか、広松由希子

#### ・研究委員会

委員長 中川素子 委員 谷本誠剛、千田篤、加持ゆか  
基本的な用語研究（用語の解説）、将来的には辞典にしていく  
講演会を開催したい（企画委員会と連携して）

・広報委員会 委員長 笹本純 委員 事務局と学生で ホームページ担当 今井良朗

### 7. 会則改定委員会のあり方について

会則改定委員会のあり方について、増成隆士委員長より会長宛てに文書（会則改定委員会の解散を求める意見書）が届き、その文書を巡って会長ならびに会則改訂委員会メンバーより事情説明がなされた。この問題については、理事会を招集し理事会で今後のことについて検討していくことになった。

### 8. ニュース19号の発行について

ニュース19号が、会員への発送を前に、運営委員会で配付され

た。会員へは9月中に発送予定であることが、笹本事務局長より報告された。

#### 9. 研究助成募集について

ニュース19号で、10月20日締め切りで募集との報告。

#### 10. 会員名簿の作成について

次号のニュースと一緒に、発行する予定と報告された。

#### 11. 会費納入状況

約250名の納入があったことが報告された。

#### 12. 運営委員会、理事会のあり方について

会則に則った会議の運営をという意見や事務連絡を整えていく欲しいという意見があったことが報告された。

#### 13. 運営委員会、理事会の開催日程について

原則的には、理事会は5月、7月、10月に、運営委員会は5月、6月、7月、9月、11月、2月に開催するということが確認された。

11月22日 運営委員会 於 日本女子大学6号館3階会議室

議事

#### 1. 第7回 絵本学会長崎大会について

活水女子大上出恵子氏を交えて大会テーマ、プログラムの内容について検討。詳細は本ニュース9頁記載の通り。

#### 2. 機関誌『BOOK END』2号について

台割りに基づいて内容の詳細を検討。特集は「絵本と絵本美術館」。ほかに絵本に関する書籍の書評、名作絵本論、新刊レビュー、絵本関連美術館リストなど。

#### 3. 専門委員会報告

紀要編集委員会

研究論文投稿状況、審査の進捗具合について報告。

#### 4. 理事会報告

11月9日開催の理事会報告

#### 5. 研究助成について

3件の申請について審議、承認。

#### 6. その他

ニュース20号の内容、発行について→12月末発行を目指す

会員名簿の作成について→ニュース20号とともに発送

学会封筒の作成について→新たに作成する

次回運営委員会の開催日程について→2004年2月28日

### ●理事会

11月9日 理事会 於 東京新宿 談活室滝沢

議題：

#### 1. 会則検討委員会のあり方について

増成委員長の申し入れをいれて、現委員会を一旦解消する。

改めて会長諮問機関として新委員会を設置する。委員会で検討すべき問題は以下の3点とする。

1) これまでの理事会と運営委員会を一本化する方向で会則を整備する。

2) 役員の定数、任期、再任の可否などについて検討し、会則に明記する。

3) 全体の表現を簡潔にするなど見直しを行う。また不適切な字句表現などについて訂正をほどこす。

なお、旧委員会での検討内容は参考として活用する。

#### 2. 紀要編集委員会関連

紀要の「執筆要領」について、項目立て等を整理した新フォーマット（内容変更は無し）が提案され、

今後はこれを正規の要領として扱うこととなった。

#### 3. 「BOOK END」について

編集委員として、広松由希子、加持ゆか両氏を承認。内容については企画立案が進行中と報告された。

費用面の扱い、フィルムアート社との契約などについて明確にする必要と指摘された。

#### 4. 研究助成について

「絵本表現研究会」「戦後60周年子どもの本・文化プロジェクト」「日本絵本史研究会」の3件の申請を承認した。

● この度、会員名簿を作成いたしました。遺漏のないよう注意したつもりですが、もし記載事項の誤り、変更訂正などございましたら、事務局までお知らせ下さい。

本来この時期のニュースは、12月にお手元にお届けすべきものですが、諸事情により遅れました。お詫び申し上げます。ご容赦下さいます様。